

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 23 年度	学 位 名		修士(公共政策)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	並川 健
指導教員氏名	小場瀬令二			
論文題目	富山市中心商店街における再開発の進行とまちなか居住に関する研究			
論文概要	<p>現在、地方都市で共通にみられる課題として、モータリゼーションの進展と郊外の開発に伴う低密度な都市の拡散によって、中心市街地の衰退とともに商業基盤が都心から郊外のロードサイドへと移り替わっている。一方、都心の中心商店街では既存の空間ストックを活かして、まちなか居住に焦点を当てた住商近接の都心住宅地としての再生を図る事例が生まれている。そこで本研究では、地方都市の中心商店街における住宅地整備を目指した再開発の進行とまちなか居住に着目する。</p> <p>既往研究を踏まえて、コンパクトシティ構築のためのまちなか居住の推進を考える上で、都心の人口増加を目的として住宅基盤を整備するような都市構造の変革という観点に加えて、都心居住者の生活に視点を置いた考察が必要であると考えた。そこで本研究では、第一に、地方都市の中心商店街における再開発計画の経緯や進行上の課題を分析して、都心住宅地として整備される上での留意点を明らかにすること、第二に、都心居住者を受け入れる側として、日々の生活を支える場となる商店街の現状や課題を明らかにすること、以上の二点を研究の目的とする。研究対象は、商店街全体が主体となって再開発計画を推し進めている富山市の中央通り商店街である。富山市は、全国に先駆けてコンパクトシティ政策に積極的に取り組んでおり、本研究の対象として最適である。主に、現地調査やヒアリング、アンケート調査を研究の方法とした。</p> <p>結論としては、再開発に関して、直線状の商店街を一体的に再開発する場合は、地価の格差が課題となること、そして中央通り地区では住宅投資のニーズは高いが商業投資のニーズには欠けることがいえる。またまちなか居住に関して、今後の商店街では居住者にとって生活利便性のある商業店舗を立地させることが重要となること、そして高齢者を中心とした自動車を保有しない居住者の徒歩圏内での生活を支える場を提供すべきであることがいえる。今後、地方都市において商店街を都心住宅地として再開発する場合には、地価の格差や商業投資の需要などの経済動向を正確に捉えること、そしてまちなか居住者の生活ニーズに合わせて業種転換を図り、徒歩圏内での生活を実現させる都市空間を創出することが望まれている。</p>			
審査日	平成 24 年 1 月 31 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 教授	工学博士	谷口守	
副査	筑波大学 教授	工学博士	小場瀬令二	
副査	筑波大学 教授	博士(工学)	藤川昌樹	
副査	筑波大学 講師	博士(工学)	藤井さやか	